

# 令和元年度第3回境港市総合戦略推進会議録

日 時：令和2年1月9日（木）14：30～15：10

場 所：境港商工会議所 大ホール

出席者：別添のとおり

傍聴者：1名

日 程：

1. 開 会

2. 副市長挨拶

3. 協議事項

(1) 第2期境港市総合戦略（素案）について（P1～P7）

(2) 第2期境港市総合戦略（素案）のK P Iの設定について

(3) その他

4. 報告事項

(1) 境港市人口ビジョンの改訂について

5. その他

6. 閉 会

配布資料：

- ・【資料①】第2期境港市総合戦略の概要について
- ・【資料②】第2期境港市総合戦略（素案）
- ・【資料③】第2期境港市総合戦略のK P Iの設定について
- ・【資料④】境港市人口ビジョン改訂版（素案）
- ・【参考資料①】第2期境港市総合戦略の新規具体的施策について
- ・【参考資料②】SDGs（持続可能な開発目標）について

1. 開 会

（事務局）

皆様、本日はご多忙の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。只今より、「令和元年度 第3回 境港市総合戦略推進会議」を開催いたします。私は、事務局をしております「地域振興課長の沼倉」と申します。旧年中は皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。引き続き、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

初めに、配布資料の確認をいたします。事前に送付させていただいておりますのが、「式次第及び委員名簿」、この後、協議事項で用います、「資料①第2期境港市総合戦略の概要について」、「資料②第2期境港市総合戦略（素案）」、「資料③第2期境港市総合戦略のK P Iの設定について」、「資料④境港市人口ビジョン改訂版（素案）」、「参考資料①第2期総合戦略の新規具体的施策について」「参考資料②SDGs（持続可能な開発目標）について」でございま

す。

また、本日の「出席者名簿」、「配席表」を机上に配布いたしております。全てお揃いでしょうか。不足の資料があれば、お知らせください。

それでは次第に従い、境港市 清水副市長より ご挨拶申し上げます。

## 2. 副市長挨拶

(副市長)

本日は、お忙しい中、令和元年度第3回境港市総合戦略推進会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。皆様方には、日頃から市政各般にわたりご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、11月に開催いたしました前回の推進会議では、1回目の会議で頂戴しましたご意見に基づき取りまとめた具体的施策やKPIの項目等について、ご了承をいただいたところであります。本日の会議では、ワーキングチーム会議等で議論を重ね作成しました第2期総合戦略(素案)をお示しすることとしております。委員の皆様方にはそれぞれの活動やご経験に基づき、忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

本日は、9名の委員より、ご欠席のご連絡をいただいております。なお、県の地方創生コンシェルジュで境港市を担当いただいております鳥取県西部総合事務所 地域振興局 西部観光商工課の八幡課長様にオブザーバーとして、ご出席いただいております。よろしく願いいたします。

それでは、推進会議設置要綱第6条の規定により、本推進会議、梶田会長様に、これ以降の進行をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(会長)

ただいまご紹介にあずかりました観光協会会長の梶田です。一言ご挨拶というお示しでしたが挨拶は省略しまして、スムーズな進行をしてみたいと思いますので、何卒ご協力をよろしくお願い申し上げます。

では、さっそく議事を進めさせていただきます。

次第3「協議事項」に入ります。まずは、「(1) 第2期境港市総合戦略(素案)について」事務局から説明してください。

## 3. 協議事項

(1) 第2期境港市総合戦略(素案)について(P1~P7)

(事務局)

地域振興課の木村です。本日はよろしく願いします。着座にて失礼します。第2期境港市総合戦略(素案)について説明いたします。

前回の第2回境港市総合戦略推進会議で、委員の皆様より、具体的施策の項目や、KPIの項目について、ご了承をいただき設定しておりますので、今回は、お手元の「資料①第2期境港市

総合戦略の概要について」を用いて、素案の1ページ～7ページについて協議をいただきたいと思います。

まず、1. 策定の趣旨についてです。

第1期総合戦略で目指した、重要課題である人口減少と地域経済縮小を克服し、魅力と活気にあふれ、心豊かに安心して暮らせる「境港市」を構築するため、「継続を力」にし、本市の特性・魅力を活かした施策を充実・強化するとともに、SDGsの理念や関係人口の創出といった新たな視点も取り入れながら、重要課題に一体的・持続的に取り組んでいくため、第2期総合戦略を策定することとします。

続いて、2. 対象期間についてです。2020年度（令和2年度）から2024（令和6年度）までの5年間としております。

続いて、3. SDGsの理念の取り込みについてです。SDGsとは、国連において採択された2030年までに達成すべき課題とその具体的な目標であり、国だけではなく、地方自治体や企業・団体等においても、その理念を積極的に取り入れることが求められております。本総合戦略においても、第2期より新たにSDGsの視点を取り込み、17分野の目標を概ね取り込み目指達成に向けて施策を行ってまいります。どの施策にどの目標が当たっているかは素案の8ページ以降にマークを添付しています。また、SDGsに関しましては、「参考資料②SDGs（持続可能な開発目標）について」にその内容を簡単にまとめておりますので、参考としていただくようお願いいたします。

続いて、4. 取組の基本的方向と基本目標についてです。「第2期総合戦略」では、「第1期総合戦略」の「2つの道筋と2つの視点」という取組の基本的な方向と、これに基づく3つの目標を引き継ぎ、取り組めます。まず、2つの道筋についてですが、左側の「3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり」については、「水産資源」、「観光資源」、そして「重要な社会基盤」である3つの港を活かし、雇用拡大や、移住定住の促進を行ってまいります。次に右側の「子育てするなら境港」を標榜した子育て環境づくりについては、「子育ての負担軽減」、「子育て環境の充実」、「出会いの場や就労環境の充実」により、結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援を行い、少子化に歯止めをかけていきます。

続いて、裏面をご覧ください。2つの視点としては、第1期と変更はございません。

続いて、基本目標です。先ほどあったように第1期の目標を引き継ぎ、2つの道筋を基本目標とし、あわせて圏域の目標を設定します。

基本目標①については、（3）社会基盤の整備の②について、第1期では「みなとを核とした官民連携による賑わいづくり」としていましたが、「港湾の整備拡充と賑わいづくり」と改めました。また施策としては「竹内南地区の国際貨客船ターミナル整備（国土交通省・境港管理組合実施事業）」を削除しました。

基本目標②につきましては、特に変更点はございません。

最後に、圏域の目標③ですが、こちらは中海・宍道湖・大山圏域市長会の第2期総合戦略と記載を合わせる形で第1期より修正しております。

なお、新規の施策につきましては、「参考資料①」をご確認ください。説明は以上です。

(会長)

事務局から、第2期総合戦略(素案)について「資料①」の概要を用いて説明がありました。ご意見のある方は、挙手のうえ、お願いいたします。

特にSDGsについて、さらに加えた方がよい項目等ございましたらお願いします。

(委員)

日本青年会議所の方で、昨年からSDGsの推進に取り組んでいることもあり、質問させていただきます17の目標ということですが、7番の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」が総合戦略に入っていない。この内容は自然エネルギーだとか燃料電池だとかまちづくりにとっては必要不可欠なことです。市として取り組んでいることがあれば入れれば良いのではないかと思いました。この17項目全てが達成されるまちの方が良いと思いますので、よろしくお願ひします。

(会長)

ただいまのご意見に対していかがですか。

(事務局)

SDGsの17項目の分野について、資料②第2期境港市総合戦略(素案)の4ページに記載しております青線枠で囲んだ16項目については、それぞれいずれかの項目について、境港市総合戦略の中で施策を組めるだろうということでマークしておりますが、委員よりご指摘の7番の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」は青線枠で囲んでおりません。これは境港市自体の事業として取り組んでいるところではあるのですが、総合戦略の施策としては拾える項目がなかった。2期がスタートして新たに加えられるような具体的な施策があれば、今後の推進会議で諮って、7番の項目も加えるという形で進めさせていただければと考えております。現時点で、この7番については、ワーキングチームでも知恵を絞ったところではありますが、フィットする施策がないということが結論でございます。よろしいでしょうか。

(委員)

ありがとうございます。引き続き、よろしくお願いします。

(会長)

そのほか、ご意見ございませんか。

(副会長)

資料①の裏面、基本目標①にDBSクルーズフェリーの利用促進とありますが、DBSクルーズフェリーは現在、2月いっぱいまでは運行中止ということですし、その後についても不確定要素が非常に高いと思っております。したがって、DBSクルーズフェリーという限定した言い方

でなく、外国船クルーズフェリーとか、DBSを含めたクルーズフェリーとか、そういった文言にしていだかないと5年間というサイクルがございまして、その間にDBSが休止してなくなってしまったということになりますと何のために戦略会議をしたのか、予見できなかったのかということになりかねません。副会長としてもこの辺は、限定するべき事案ではないのではないかと思います。いかがでしょうか。

(会長)

事務局どうですか。

(事務局)

副会長からご指摘いただきました。ごもっともなご指摘かと思います。ただ、前回の推進会議でDBSクルーズフェリーの乗客数という項目をご承認いただいたという経緯もありますし、現時点では2月までの運休ということですし、事務局としては、このままで良いだろうということで記載しております。

(副会長)

第2回の会議では、これまでの客数をデータとして出していたと思うんですね。これが今後も稼働していくのかどうかは疑問符がつく状況であるわけですから、DBSを抹消しなさいというわけではなくて、「DBSを含めた」というような形にしておけばどうでしょうか、ということです。

(事務局)

13ページをご覧ください。先ほど、総務部長からもありました通り、DBSクルーズフェリー乗客数という項目を数値目標に掲げております。2月まで運休という状況ではありますが、10年続いたDBSクルーズというものをここで数値目標からなくして良いのだろうかということもあってここに記載させていただいております。復活に向けて努力もしないといけないと思っておりますし、一先ずは、こういった目標を掲げさせていただいて、今後、DBS自体の名前がなくなるですとか、そういうことがあれば、さらに新しい航路を見つけるという努力をしていくということで、その時点で変更させていただけたらと考えております。

(副会長)

理念的には分かります。ただ現実問題、5年先にこれがずっと計画としてあるかというのは疑問符があるんですね。だから、目標としては良いのですが、これがだめになったときに戦略会議全体として予見・予測ができなかったのかという一般のパブリックコメントを含めたものからご指摘を受けたときに、我々は返答のしようがないんですね。だから、「DBSを含めたもの」と書き換えた方がどっちに転んでも良いようになります。これを承認するということは我々委員にとっても責任が生じるということになりますので、細かいところですけど、その点を考えた

ころです。それでも、このままでいきたいということであればそれで結構です。

(会長)

配船の関係はこの半年、いつどうなるか分からないという状態が続いているわけです。だから、どういう文言を使うにせよ、難しいと思いますよ。難しいという状況を分かった上で、そんなことをごちゃごちゃ言ってもキリがありません。

(副会長)

いや、限定することが果たして良いのかどうかということです。

(事務局)

分かりました。私どもとしては、委員の皆さんからこれで良いということでワーキングチームでも考えてきた経緯もありますが、ここにきて、DBS以外の航路についても今後加えていくんだということであれば、そういった文言の変更も可能かと考えます。

(会長)

それでいきましょう。

(委員)

関連してですが、DBSクルーズフェリーは固有名詞かと思いますが、「国際定期貨客船」という言葉の方がどうかと思います。

(副会長)

これはまた検討してみてください。

(事務局)

会長、すみません。先ほどの委員の発言の「DBSクルーズフェリー」を「国際定期貨客船」という言葉に書き換えるという提案について、会長から諮っていただけたらと思います。変えることに私ども異論はありませんので。

(会長)

では、そういった形で納めるということによろしいでしょうか。

※委員から「はい」の声

(会長)

ありがとうございます。あまり堅いことを考えずとも良いかと思いますが。

(副会長)

これがまた議会に報告されるんですよ。だから、委員にも責任があるわけです。

(会長)

責任なんて言ったらキリがないですが。まあ、そういうことでいきましょう。

それでは、他に意見がないようでしたら、続いて、「(2) 第2期境港市総合戦略(素案)のK P Iの設定について」を協議します。事務局より説明をお願いします。

(2) 第2期境港市総合戦略(素案)のK P Iの設定について

(事務局)

それでは、K P Iの設定について説明します。

「資料③第2期総合戦略のK P Iの設定について」の資料をご覧ください。なお、1ページ①国内外への市場拡大及び新商品開発支援の一番下「境港取扱貨物量」及び「境港貿易額」につきましては、総合戦略(素案)の8ページをご覧ください。管理組合において、現在港湾計画を策定中であり、計画決定後に設定する考えですが、前回の総合戦略推進会議で掲載する旨説明しておりますので、枠は作り、注釈での対応としたいと思います。

そのほか、新たな項目といたしましては、2ページ①観光地の魅力向上による滞在型観光の推進の「新規体験メニューの造成件数」、同じく2ページ②外国人観光客の誘客の「水木しげる記念館外国人観光客数」、また、3ページ①ワーク・ライフ・バランスの啓発・支援の「市民や事業者に向けたセミナー開催件数」を設定しております。

そのほか、4ページの圏域の目標にありますK P Iについては、中海・宍道湖・大山圏域市長会の第2期総合戦略と記載を合わせる形で第1期より修正・追加をしております。以上でK P Iの設定について説明を終わります。

(会長)

それでは、K P Iの設定について、ご意見やご質問がある方は、ご発言ください。

(委員)

資料③の2ページ(2)観光の振興にある「クルーズ客船寄港年間観光客数」で7万人という数字が掲げられておりますけれども、2018年辺りの数字は6万人程度だったと思いますが、これから管理組合としても伸ばしていこうと思っておりますので、この「クルーズ客船寄港年間観光客数」と「クルーズ客船寄港年間外国人観光客」のK P I設定について、再考していただきたいと思っております。

(会長)

ただいまそういうご意見がありました。どうですか。この7万人という数字はどの時点で想定している数字ですか。

(委員)

2018年が6万人程度でしたから、これから寄港を増やしていこうというところですので、ちょっと少ないかなと。

(事務局)

ワーキングチームや主管課・担当課が他所と連携を取りながら設定した数字でございまして、根拠としては、委員が仰るように平均6万人にプラスアルファをしたというところで、現在の寄港回数からすると、高くはないけれども、これなら超えられるというような設定しているところでございます。

それで、このKPIの設定については、ここで諮りたい部分でもありますので、できましたら委員さんの方から適当な数値を提案していただけると助かりますが、いかがでしょうか。

(会長)

いま数値が出せるようなら出してもらえたら。

(委員)

いま長期構想で出されている数値で、寄港回数100回、乗客数12万人という数値を出しております。これを年度で区切った場合にどれほどになるかはこの場では出せませんが、お時間いただければ私どもの方で検討したいと思います。

(会長)

なるほど。では、ここで決まるわけではないが、半分決まったという形ですかね。事務局どうでしょう。

(事務局)

私どもの担当部署だけで数値が分かるものだけではありませんので、委員が言われたとおり、改めて関係団体と確認したいと思います。

(会長)

では、そういう形で練り直しをして、数値を固めてもらいたいと思います。よろしいですか。

※委員より「はい」の声

ほかにご意見ございませんか。

(委員)

「国際線利用者数（上海便・香港便・チャーター便）」とありますが、ソウル便が抜けているように思いますが。



(事務局)

確かに、韓国のソウル便がございませんが、事務局で精査する中で、副会長から不確定な部分であるので、削除した方が良いのではないかというご意見をいただいたため、掲載をしていないというところであります。

(会長)

こちら、もう一度関係者で集まって検討しますか。

(事務局)

委員よりご指摘がございましたが、項目については、前回の推進会議で各委員さんからご意見を頂戴して、項目や表現的なことについてはご承認をいただいて進めてきたところでして、ソウル便についても、そういった経緯があるということでございます。

(会長)

その辺の調整はできますか。

(事務局)

ソウル便については運休が決定しており、DBSと違って再開の目途も立っていないところですが、第2期がスタートした時点で、ソウル便の運航が再開されるようなことがあれば、その時点で修正をさせていただいて、KPIの数値も再設定もさせていただこうと思います。

(副会長)

ちなみに、アジアナ航空、系列のエアソウルも含めて、現代産業開発という会社に昨年末に買収されました。したがって、これがどこに便を送りつけてくるかというのもこれからの段階の話です。県としてもどこに行っているのか分からない、つまり、この現代産業開発、主にホテルとか免税店を展開している現代グループの一つですが、ここがどうするのか分からない状況で、KPIの数値を設定するというのは絵に描いた餅以上のものではないかと。それは戦略会議という名のもとにおいては、不確定要素が高すぎるということを事務局に伝えたことはございます。

それで、この新しい会社が米子便も作るぞとなって、増える分には構わないと思います。数字が違って嬉しい悲鳴なわけです。むしろ、DBSの3万の方がもし休止してしまうとこの目標というのは当然達成できませんので、これはまた変えていかないといけないと思います。

(会長)

あまり深く考えなくても良いと思うんですけどね。いつどうなるか分からないわけだから。

(事務局)

境港市総合戦略につきましては、毎年、検証をさせていただいております。その中でソウル便の

様子も見ながら、K P I の上昇ですとか、検証の場でご指摘いただけるとありがたいなと思っております。よろしく申し上げます。

(会長)

そういうことでよろしいですかね。

そのほかございますか。事務局のほうで何かありますか。

(3) その他

(事務局)

概要についてとK P I の設定について承認をいただきました。それでは、総合戦略（素案）全体について、何かご指摘があれば伺いたいと思っておりますがいかがでしょうか。

それでは、2点確認です。資料③につきましては、委員からクルーズ客船の観光客数についてご意見があり、管理組合としても、がんばる数値をあげているので、もう少し上方修正できないかということでしたので、管理組合とも相談させていただきながら、数値を変えていきたいと思っております。そのほか、D B Sクルーズフェリーについては、現段階では再開が予定されており、ソウル便については運休となっており、先が見えそうなものと見えないものという状況ですから、これについては、次年度以降に検証していこうというご協議内容だったかと思っております。よろしいでしょうか。

(会長)

それで結構です。

(事務局)

ありがとうございます。

(会長)

続いて、4. 報告事項に移ります。「(1) 境港市人口ビジョンの改定について」を事務局より報告をお願いします。

#### 4. 報告事項

(1) 境港市人口ビジョンの改訂について

(事務局)

それでは、境港市人口ビジョンについて報告いたします。境港市人口ビジョンは平成27年に第1期境港市総合戦略と合わせて策定したものです。内容としましては、境港市の人口や転出入などといった「人口の現状分析」、また、国の人口推計を基に境港市独自の人口推計を行った「人口の将来展望」という2つの構成になっております。今回、新たに国の推計が提示されたことから、人口の現状分析の数値を最新の数値に変え、また、独自の人口推計を新たな国の人口推計を

基に修正するという形で、ビジョンの改訂を行います。

14ページをご覧ください。新たな国の推計における境港市の将来人口は2040年には27,078人となっております。記載しておりませんが、前回の人口ビジョンでは2040年の人口は25,415人でしたので、前回に比べ国の推計における境港市の人口減少は若干ゆるやかになっております。これは推計の基となっている5年間の人口減少や出生率が前回に比べ、緩和されたためで、この傾向は、全ての市町村に当てはまるものではありませんが、全体的に同様の傾向となっております。とはいえ、依然、国全体の人口減少は進んでいることから、本市の人口ビジョンでは2030年までに「合計特殊出生率を2.07%にまで引き上げる」こと、「社会動態をゼロに改善し、その後、社会増に転換する」といった2つの前提条件を基に人口推計をいたしました。推計結果に関しましては、人口ビジョンの24ページ～27ページに掲載しているとおりです。以上で説明を終わります。

(会長)

それでは、報告事項について委員の方より何かあればどうぞ。

ないようでしたら協議・報告については、これまでとしたいと思います。

事務局から何かありますか。

## 5. その他

(事務局)

ご協議ありがとうございます。本日、境港市総合戦略（素案）という形に皆さまにお示しし、いただきました意見に基づき修正した上で素案とし、1月15日からパブリックコメントをさせていただきます。その後、意見等に回答し、さらに修正があれば修正した上で、2月中旬に開催予定の第4回境港市総合戦略推進会議には、「第2期境港市総合戦略（案）」として提示したいと思いますのでよろしくお願ひします。

(委員)

1点良いでしょうか。資料③の4ページ圏域の目標にあります「観光消費額」について、KPIを1,160億円と設定しておりますが、どのようにして設定されたのでしょうか。

(事務局)

これは中海・宍道湖・大山圏域市長会が設定したものではございますが、外国人観光客宿泊数約45万人、国内の宿泊数を430万人と見込んでおります。そして、山陰インバウンド機構が国別の消費単価を算出してございまして、国外の方については17,000円、国内の方については25,000円、これを先ほどの45万人と430万人にそれぞれ乗じまして、合計したものが1,160億円でございます。そういった形でKPIを設定したと聞いております。

(委員)

分かりました。要は「人数×単価」ということですね。

(会長)

そのほかございませんか。

(副会長)

戦略会議とは少し争点が違いますが、新聞報道等によりますと済生会病院が全国で廃止ということが出て、県知事も反対しているということですがけれども、済生会病院を残していただくように市の方々も市民も一丸となって、あるいはそういう運動でもあれば、署名活動でもして、行政にだけ任せるのではなく、市民も一緒になって、何とかして残していくということが必要ではないかと個人的に思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

この度、統廃合ということで424病院が病院名を公表されまして、その中に済生会境港総合病院も入っております。このことに対しましては、私どもも非常に驚いております、こういう画一的・機械的な線引きで統廃合を強制的にされるということはあってはならないことだと考えております。済生会病院は自治体の病院ではございませんけれども、他市町村の日南病院や西伯病院等と足並みを揃えて、自治体病院と同じ感覚で向かっていかなくてはならないということでございます。

本日、ちょうど済生会本部の方からも、様々な地域貢献をしていることや、なくてはならない病院だということを理解していただくために、色々なパンフレットだとかを作成するので、それを市役所の方に置いてもらえないかというご相談もありましたので、市民の方々に済生会病院を守らなければならないという機運を高めてもらうために、タグを組んで取り組んでいこうと思っておりますのでよろしく願いいたします。

(会長)

割と、切羽詰まった話になっていますね。まあ、これはそういうことです。

## 6. 閉 会

(会長)

ほかにごございませんか。

特にないようですので、本日の会議日程は以上となります。委員の皆様には、長時間わたってご協議いただき、ありがとうございました。